異常な世界 ※男子高の物語でＢＬ要素あります。

和茶巣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
異常な世界　※男子高の物語でＢＬ要素あります。

【Ｎコード】
Ｎ６２５２Ｘ

【作者名】
和茶巣

【あらすじ】
上陽学園、ここは日本で一番入るのが難しい男子高だ。
そこに通う男子たちが繰り広げる、物語。
ＢＬです。
グロが入っています。

一話（前書き）

小泉（こいずみ）　春（はる）
誕生日　４／７

高校三年の１８歳
周りにはバカって言われているｗｗ
高校一年の弟がいる。
そして、弓道部の部長をやっている。
クラスの中では成績は下から数えたほうがはやい。
家は政治関係の仕事をしている。
誰にでも優しく、クラスの人気者。

一話

？「もうすぐでもうすぐで会えるんだよ。ねぇ、早く会いたいな。」

高校三年の初めこんな事が始まろうなんて…

タッタッ
春「ヤバいヤバい！あと、五分！！」

ハァハァハァ

春「セッセーフ！！」
バンッ
？「アウトだバカ。」

春「痛！！なっ、セーフだろ！結！！！」

結「一分遅れてんだよ。」

春「一分ぐらいいいじゃねぇか！」

結「駄目な物は駄目だ！」

春「結のケチ！！行くなら起こしてくれたっていいじゃないか！」

結「バカか、今日は生徒会の仕事ではやくから行くって言ってただろ！」

春「あーもう！バカバカうるさいんだよ！！結のバカ！！」

結「チッ、やんのか！？」

タッタッタッ

？「結さ～ん！！いい加減喧嘩しないで来てください！もうすぐ、始業式が始まりますよ！！」

結「あぁ、ごめん空。今からそっちに行くよ。」

空「はい！」

結「そうだ、おい春これ。」

そういって結が俺に紙とネクタイを渡してきた。

春「ん？」

結「ん？じゃない。紙は組が書いてるやつ、ネクタイはお前がしてないからな！」

そういって、結は俺の首にネクタイを着けてくれた。

結「始業式ぐらい、ちゃんとした服装で来い！」

春「すまん。でも、サンキュー！ありがとうな！！」

ジ～

うわ、結の後ろから冷たい目線が！

結「空体育館にいくぞ。」

空「はい！わかりました！」

コソ

空「春もさっさと体育館に来いよ。結さんに恥じかかせたらタダじゃおかねぇから。」

うわーすごい変わりよう

一話（後書き）

秋月（あきづき）　結（ゆい）

誕生日　１２／２

成績優秀・運動神経抜群・文武両道とゆうすごい肩書きをかっさらっている高校三年。

春とは、小学校の頃出会ったころからの付き合いで幼なじみ。

クールで静かだが、怒ると怖い。

家は上陽学園の理事長や校長、医者などをやっている。

生徒会長をしている。

空は次の前書きで書きます（＾ｏ＾）／

二話（前書き）

野上（のがみ）　空（そら）

誕生日　５／１４

生徒会副会長

家は野上財閥という有名な財閥で世界で一番か二番を争う財閥だ。

そして、結の事が大好きで、結にだけは敬語を使う。

春たちとは中学生から付き合うようになった。

岬とは幼なじみ。

二話

ガラッ　タッタッ

？「おい！遅かったな。寝坊か？」

春「うるせぇ、いいだろ！岬！」

岬「なんだと！喧嘩売っとんのか？」

空「そこの人たち。もうすぐ、始業式が始まるので静かにしてください！」

岬「っと、始まるみたいだな。静かにするか。」

春「そうだな。」

空「ただいまから始業式を行います。新一年生が入場しますので、拍手で迎えてください。」

パチパチパチ

ボソッ

岬「なぁ、春の弟ってこの学園に入ったんだよな？」

春「あぁ、一年の代表だったかな？」

岬「マジか！兄弟で大違いだなｗｗてか、Ｓクラス行き間違いないんじゃねぇ？」

春「かもなｗｗ」

この学園は一年は様子見のため成績順でＡ～Ｄの４クラス。
二年からはその上のクラスＳクラスと言うのが出来る。
そして、俺ら四人はＳクラスに所属している。

さっさと、おわんねぇかな？

結「それでは、先生方の紹介をいたします。」

岬「なぁ、また理事長や校長たちは丸投げか？」

春「そうじゃねぇ？」

ここの先生たちは大抵生徒の自主性を伸ばすために始業式などの司会は生徒に任せている

結「それでは、一年の先生方から…」

岬「先生だれになるんだろ？」

春「どうせ、また新谷だろ？あいつ先生の中で一番偉いんだろ？」

岬「なんだ。てか、俺あいつ嫌いなんだよな。」

春「俺もだよ。」

結「Ａの担任は新谷先生。」

ザワザワ

岬「はぁ！マジで！？」

春「毎年、Ｓクラスの担任は新谷だろ？」

空「静かにしてください！」

結「え～、それではＳクラスの担任は…。」

春「なんで！？なんでいるんだよ！？」

二話（後書き）

鈴岡（すずおか）　岬（みさき）
誕生日　９／７
剣道部の部長
こいつもバカと言われている。
春とは最下位争いを繰り広げている。
家は剣道の名門である事情があって、別の仕事もしている。
空とは幼なじみで春たちとは中学生から付き合うようになった。

三話（前書き）

憂騎（ゆうき）　零（れい）

誕生日　８／１７

現在２０ながらも上陽学園の先生になることになった。

学園にいたときはテストは１００以外とった事はないくて生徒会長をやっていて、結も入学式に強引に生徒会に入れられた。

今年、Ｓクラスをもつ事になった。

三話

？「ハロー☆一・二の奴らは初めまして！三年の奴らは久しぶり☆」

ダッダッ

春「なんで！？なんで、零が入るのてか、先生になったってマジ！」

零「春！！久しぶりだな！元気にしてたか？てか、先生じゃ無かったらここにいないだろ？相変わらずバカだなｗｗ」

春「バカ言うな！てか、今零って今年で２０じゃなかった？」

零「そうだよ。大人の事情だから、詳しくはきくなｗｗ」

春「わかった！」

結「憂騎先生と小泉さんは早く戻ってください。」

零・春「え～！」

空「さっさと帰れって言ってんだろ？五秒以内に帰らないと反省文５０枚。もちろん、先生も」

うわ怖！

春「岬～怖かった！！」

岬「ドンマイｗｗ空は怒らすと怖いからなｗｗ」

結「次は、一年生徒代表の挨拶です。」

？「はい。先輩の皆さま方、一年代表の小泉　葉です。」

岬「春、弟の登場じゃん！」

春「あぁ。」

結「以上で始業式を終ります。」

三話（後書き）

小泉（こいずみ）　葉（よう）

誕生日　３／２６

春の弟

もしかしたら、春より賢い！？

一年代表でＡクラスに所属している。

岬の事を師匠とよんでいて、したっている。

四話

春「にしても、疲れた！　なげーよ！！」

岬「始業式はまだ短いほうだろｗｗ　つか、弟くん凄かったな！！」

春「あぁ、そうだな。」

岬「ん？　どうした？」

春「なんでもねぇーよバカｗｗ」

岬「なっ！？　お前のほうがバカだろ！！」

？「バカども、ケンカはやめろ。」

春・岬「あぁ！？」

空「そうだよ、ケンカするなみっともない。」

春「あぁ！？　なんていった？」

結「うるさいバカ！バカにバカっていって何が悪い。」

春「あぁ！それは、ケンカ売ってんのか？」

澪「初日からケンカするな～！　バカやろうども」

結「なっ！？」

春「はっはっはっ！　結バカやろうって言われてる！！」

結「うるさいな！」

澪「お前らあと五分でホームルーム始まるってわかってっか？」

岬「うわ！？　ほんとだ！！　やべぇ！」

空「わかってたなら、先に言えよ！　澪じゃなかった憂騎先生！！」

澪「遅れたやつ、殺すからｗｗ　よーい」

春「ちょっ！？」

澪「どん！」

四話（後書き）

どーも！
作者ですｗｗ
いつもは、キャラ紹介なんですが、新キャラが今回はいないので書けませんｗｗ
まぁ、後々でる予定ですｗｗ

次の予告
三年になった四人、教室では見慣れた光景がと思ってたら。
新しい影が！

次回もみてくださいｍ（＿＿）ｍ

五話

春「はぁはぁはぁっ。」

結「くそっ。」

空「鬼畜すぎるだろ！」

岬「まぁ、間に合ったにいいんじゃね？」

春「そうだけど、体育館からここまでダッシュってｗｗ」

岬「まぁ、いい練習になったとおもえばいいんじゃね？」

結「たしかに。」

空「岬もいいことたまには良いことというな。」

岬「たまにってｗｗ」

春「…。　なぁ？」

結「なんだ？」

春「人変わってね？」

岬「ほんとに、五人ぐらい変わってる。」

空「ある意味お前らが落ちてないのが、不思議だなｗｗ　もちろ

ん、結さんは別ですよ！！」

この学校の制度で成績順にクラスの入れ替えがある。
だけど、Ｓクラスのクラス替えは珍しいものだ。

結「見たところ、四人ぐらい転校生みたいだな。」

岬「うわっ！　転校してきてＳクラス行きなんてやべぇなｗｗ」

空「というか、その転校生どっちも双子みたいですねｗｗ」

春「ある意味すげぇなｗｗｗ」

岬「ん？　なんか、そのうちの一組が近づいてくるぞ？」

五話（後書き）

はいっ！
五話の終わりですｗｗ
次は二組の双子の登場です！！

次回予定
春たちの前に現れた、二組の双子。
それも、どっちも何かわけがあるみたい。
いったい、春たちになにか関係が？

六話（前書き）

神宮寺（じんぐうじ）　雅（みやび）
誕生日　２／１２
ある、有名な剣道道場の跡取り息子
昔は京都に住んでいた。
なので、時々関西弁になる。
髪が長くて女によく間違えられる。
昔岬と何かあったみたいだ。
棗は双子の弟

神宮寺（じんぐうじ）　棗（なつめ）
誕生日省きます
雅の事をしたっていて憧れている。
髪は短く、顔立ちはきれいだ。
棗は剣道より柔道や空手、体を使う技を得意とする。
雅は双子の兄

六話

？「久しぶりです。」

？「元気にしてみたいだな」

結「岬？知り合いか？」

岬「あっ！？　…。　すまん誰だたっけ？」

？「あっ、やっぱり覚えてないですよね。」

？「そりゃ、１０年ぶりぐらいだからな。」

岬「ごめん。　つか、１０年前って何かあったような…。」

空「珍しいね！　岬が記憶を忘れるなんて！！」

岬「くそっ！　思い出せねぇ！」

？「いいんですよ。　そのうち思いだしてくれたら。」

？「なぁ、雅。　忘れられてるなら名前いっとこうぜ。」

春「おぉ！　頼むな！」

？「それじゃあ私から。私の名前は神宮寺　雅です。隣にいる棗の双子の兄です」

棗「俺は神宮寺　棗だ！　隣にいる雅の双子の弟だ」

岬「忘れちまってごめんな！　ちゃんと思いだすから！　これからもよろしくな！！」

雅「はい！」

棗「よろしくな！」

キーンコーンカーンコーン

雅「チャイムがなったので僕たち戻りますね」

空「また、あとでね！」

棗「やっぱり、岬のやつ昔の記憶消されとるな。」

雅「みたいやな。　残念やわ。　けどな、棗獲物が近くにおるやん。」

棗「やな。　相手は俺らにきずいてへんみたいやし。」

雅「すぐに仕留めたんねん。　また、昔のように笑顔になってもらうために。　まっとってな、岬はん」

六話（後書き）

裏側ｗｗ

春「なぁ、今回俺ら出番少なくねぇか？」

結「だよな。」

春「これからは、結の出番は多分へると思うよｗｗ（ｂｙ作者）だってｗｗｗｗ」

結「なんだって！？」

春「お前、ある意味主役てき立場なのになｗｗ」

結「くそっ！　どうせ、今出てきた新キャラをいっぱいだすんだろ」

春「みたいだなｗｗ」

結「はぁ、最悪だ」

春「けど、俺はいつでもお前を見てるから」

カァ〃〃

結「急になっなにいってんだ！」

春「顔真っ赤だぞｗｗ」

結「うっうるさい！」

春「かわいいなｗｗ」

結「やめろー！！」

空「まぁ、こんな風に時々出番が少ない人が喋るみたいですね。
まっ、気が向いたらみてくださいねｗｗ」

七話

キーンコーンカーンコーン

春「やっと、全部終わった！」

結「お前はほとんど寝てただろ！？」

春「バレてたか？」

結「当たり前だ！！　あと、これから部長会議があるから岬に言っといてくれ。」

春「了解」

結「お前も忘れずに行けよ！」

春「わかってるって！」

結「先に行ってるからな！」

春「岬～！」

岬「ん？　なんだ？」

春「このあと、部活会議があるから来いって結が言ってたぞ。」

岬「おおっ！　マジかんじゃ、一緒に行くか？」

春「そだな」

春「でさｗｗ　結の奴が朝起こしてくれるって言ってたのに、先に行きやがったんだよ！」

岬「乙ｗｗ」

春「一言だしｗｗ」

プツンッ

岬「！！」

春「ん？　岬？　どした？」

ポンッ

岬「わりぃｗｗ　大切な用事があったって言うか今出来たから行ってくる！」

春「はぁ！？　なにいってんだ？　これから会議だぞ？」

タッタッタッ

岬「変わりの奴に行くように行ってくれ！！」

春「おいっ！　ちょっと待てって！！」

岬「用事って言っとけよなｗｗ」

春「おいっ！　って聞こえないよな。　用事ってなんなんだよ。」

七話（後書き）

キャラの感想ｗｗ
空「急に岬用事って走りだしましたね。」

結「ほんとにな。」

空「何処に行くんでしょう？　これから会議って言うのに…。」

結「俺が春の立場なら追いかけただろうなｗｗ」

空「さすが結さん！　それじゃあ、僕とゆう存在を追いかけてくれませんか！？」

ニコ
結「……。」

空「あぁ！　その笑顔たまんないです！！　結さ～ん」
バッ

サッ
結「抱きつくな！」

空「冷たいですね…。　そんな結さんの事が大好きです。」

結「はぁ、勝手にしとけ…。」

空「ありがとうございます！　一生ついていきます！！」

春「次回予告は俺が貰った！」

次回予告

急に走りだした岬。　大切な用事ってなんだよ。

こっちの会議も大切だろ！

そして、岬が倒れる！？

はぁ、なんだって？

まぁ、次回も見てくれよな☆

八話（前書き）

今回は岬視点です。

八話

ガチャ
やっぱり。
結界が破られてやがる。

俺は皆にある事を隠している。
それは、特別な仕事をしている事だ。
特別な仕事とは空を守る事だ。
空は特殊な体質で昔から変な物。
つまり普通の人には見えないやつらに襲われるという体質を持っている。
それが、五代に一度野上家の血縁者に現れる。
そのため、俺ら鈴岡家は野上家のボディーガードをしている。
空にはまだその事を知らせていない。
今はまだ、平和に過ごしてほしいから。空にこれ以上の負担をかけたくないから。

ちっ！
俺が作った結界は誰にも破られた事は無いのに。
だれがやったんだ！

バッサッバッサッ

まぁ、とりあえず仕事みたいだな。

キェーッ　キェーッ

いつ聞いても不可解な音だな！

「お前らがいるから空が安全に生活できないんだよ！」

グシャッグシャグシャッ

ふぅ、やっと終わった。
たく、なんでこんなにいるんだよ！
こいつらが、結界を解いた？
あり得ない。
いつものやつとかわりない。
じゃあだれが？
まぁ、また結界を張り直さないとな。

？「なぁ？　俺それをやられると困るんだけどｗｗ」

岬「あぁ！？　誰だ！　ここには誰も入れないはずだぞ！！」

八話（後書き）

次回
岬の結界を破ったやつが？
どうなる岬！？

九話

？「誰か？　覚えてないの？　つまんないなｗｗ」

岬「はぁ？　お前なんかしらねぇよ！　とりあえず、お前が結界を破ったみたいだな！！」

？「そうだよｗｗ　てか、あの事を覚えてないなんて、都合よすぎない？　最低だね。」

こいつなんの事をいってんだ！？

岬「うるさい！　とりあえず、お前を倒す！！」

ダッ

カキンッ

？「熱くなんなってｗｗ　いつものお前らしくないぞ？　ってだいぶ昔の話だけどｗｗｗｗ」

昔？　俺はこいつと戦った事なんて…。

岬「うるさい黙ってろ！」

？「ほんとに。　残念。　昔のほうが殺りがいがあったのに…。」

ガギンッ

岬「なっ！？」

俺の持っていた木刀は弾かれてしまった。

？「ほんとに何にもわかんないみたいだし、全部…。　いや、自分がどれだけひどいか教えてやるよｗｗ」

岬「なにをいって…。」

？「お前は仲間を捨てて、守るべき空をも捨てて、自分だけ生き残ったんだよｗｗ」

俺が仲間を捨てて、空をも捨てた？
こいつなにをいって…。

岬「……あっ！」

？「思い出してきたようだね。」

岬「そうだ。　俺はあのとき！　あああぁぁぁぁ！！」

思い出した…。
俺は空を仲間を見殺しにした…。
自分が弱かったから？

いや、違う。
自分を守りたかったから……。
俺はなんてことを。

？「ん～。　今の君を倒したって、面白くなさそうだねｗｗ　じゃあ、待ってあげる君が全部思いだして昔の力を取り戻したらねｗｗ　その前に空は返して貰うから。」
ガッ
俺は相手の足をつかみ、声をあげた。

岬「俺は空を守るんだ！　昔のようにならないために！！」

？「残念。　今は無理ｗｗ　それじゃあお休みなさいｗｗｗｗ」

ガッ
岬「グハッ！」

俺は腹をおもいっきり蹴られた。
意識が遠くなっていく……。

岬「そっそらをつれて行かないでくれ……。」

ガタッ
？「ごめんね。　鈴岡くん…。　空は俺らにとってはかけがえのない人だから。」

俺はその言葉を聞いてから気を失った。

九話（後書き）

気を失った岬！
どうなる？

十話

んっ？
ここは、どこだ？
ベッドの上？
保健室かな？

？「おいっ！　岬目が覚めたか！！」

んっ？
この声は春か？

岬「おお、大丈夫だ。」

春「屋上でお前が倒れてたからビックリしたぞ！！」

岬「ああ、ごめんな。」

春「大丈夫なのか？」

岬「ああ、ただの過労とストレスだよ。」

春「ほんとうに、お前は……。」

岬「そんな顔をするなｗｗ　お前らしくないぞｗｗｗｗ」

バンッ
岬「痛っ！！」

春「おいっ！？　空なにしてんだ？」

空「なにって、叩いたんだよ。」

春「はぁ！？　意味わかんねぇ！！　岬は今病人なんだぞ！！！」

岬「春いいよ。」

春「いいわけないだろ！」

空「春、一回外に出てくれる？」

春「なんでだよ！？」

岬「春、頼むから。なっ？」

春「なっ…。岬が言うなら…。」

岬「ありがとうな。」

ガラッ
バンッ

岬「空、春は行ったぞ？」

空「……バカ。」

岬「ごめん。」

空「バカ。　バカバカバカバカバカバカバカ！！！　何倒れてんだよ！　心配したじゃねえかよ！！」

ああ、また空を泣かしちまったな。

岬「空？　おいで。」

バッ

空は素直に俺の腕の中に入った。
そして、俺にバレないようになのか、息を殺して泣いている。

岬「俺は何処にも行かないから泣くな。」

空「泣いてねぇよ！　　つか、お前は俺に内緒で働きすぎなんだよ！！　たまには、俺を頼れよ……。」

岬「ごめん。　毎回お前には心配かけるな。　わかった、お前には出来るだけ頼るようにするから。　だから、お前は泣くな。　なっ？　かわいい顔が台無しだぞ？」

空「うるさいバカ岬…。　もう、倒れたり俺のそばを離れたりするな…。」

岬「わかった。　それじゃ、お前も俺のそばを離れんなよ？」

空「わかった。」

岬「素直でよろしいｗｗ」

空「グスッ　とりあえず、まだ生徒会の仕事あるから行く。」

岬「わかった。　気をつけて行けよ？」

空「お前は無理せずに休んどけよ！」

岬「了解。　あっ、なぁ雅と棗みたら、来るように言ってくれ。」

空「わかった。　じゃあな？」

岬「おう！」

空、ほんとうに俺のそばを離れないでくれよな？

十話（後書き）

春「おいっｗｗ　結なにいじけてんだ？」

結「なにって、俺の出番かすくねぇんだよ！！」

春「しゃあねぇじゃねぇかｗｗｗｗ」

結「はぁ、出番が欲しい。　俺だって、最初は重要な人物だったよな？」

春「まあなｗｗ　お前はまだいいよｗｗ　俺なんか、主人公的なポジションだったんだせｗｗｗｗ」

結「そうだよな。」

春「なんで今は岬が主人公みたいな事に！？」

結「えっと、ごめん。」

春「謝るな、つらくなる。」

結「ほんとに。」

憂「ってこんなネガティブなやつらなんかほっといて次回予告言っちゃいます☆」

次回
岬が雅と棗を呼んだ理由とは？
次回をお楽しみに☆

って、俺が一番出番ないんだけどな…。

十一話

岬「はやく二人こないかな？」

なぜ、俺は二人を呼んだかと言うと、二人は俺たちと一緒に戦った仲間だっからだ。
二人に記憶を思いだした事を喋ろうと思う。
そして、許してもらえないかもしれないがあの事を謝ろうと思う。

ガラッ
雅「岬さん呼びました？」

棗「なんだよ！　俺ら忙しいんだけど。」
雅「こらっ！　そんなこと言うな！　岬さんはただでさえしんどいんだから！！」

岬「あぁ。　大丈夫だよ雅。　それより、お前らに言わなければならない事があるんだ……。」

雅「えっ？　何ですか？」

棗「くだらない事だったら怒るからな！」

岬「あぁ。　あのな。」

棗「なんだよはやく言えよ！」

雅「こらっ！　棗！」

岬「俺、すべてを思い出したんだ。　あの時はごめん…。　許してもらえないかもしれないが、謝っておく。」

雅「ほんとにですか？」

棗「岬。　記憶戻ったのか。」

岬「あぁ。　そして、今空が危ない。　棗、空を監視しといてくれないか？」

棗「空さんが！　わかった。　なんかあったらすぐに連絡する。」

棗たのむぞ…。

そして、俺は雅を見たら雅は泣いていた。

岬「なっ！！　雅どうした！」

雅「嬉しいんです…。　岬さんが昔の事を思い出してくれて…。」

岬「今までごめんな？」

雅「いや、いいんです。　岬さんが記憶が戻った事だけで十分です…。」

そういって、雅は笑顔になった。

岬「そうそう、お前には２つ頼みたいことがあるんだ。」

雅「はい！　何ですか！？」

岬「まず一つ目は、昔のしゃべり方に戻ってくれないか？　お前らが標準語だと調子狂うんだｗｗ」

雅「わかりました。　それじゃあ、言い方に戻りますね。」

岬「あぁ、頼む。　そして、２つ目これが本題だ。」

雅「何ですか？」

岬「記憶がもどったと言っても曖昧なんだ。　それを教えてほしい。
　嫌だったらいいんだ、嫌な事を思いださせるだろうから…。」

雅「……。　わかりました。　すべてをお話します。」

岬「ありがとう。　本当にすまん。」

雅「いえいえ、私は岬さんのためならなんでもしますから。」

岬「ありがとうな。　雅。」

本当にありがとう雅お前も嫌だろうに俺のために…。

十一話（後書き）

棗「今日は俺が次回の説明みたいだな！」

次回

岬と空さん、そして俺たち双子の過去がわかる。

昔いったい何があったのか？

すべては次回で！

ちゃんと見ろよ！！

十二話（前書き）

今回は雅目線で岬の昔話です。

十二話

あれは、私が五歳の頃。
私たちは父に連れられて岬さんの家に行った時、私たちは自分たちと変わらない歳の少年が大人たちを打ち負かしてるところを見ました。
その少年は幼いながらも最強の名を持っていたいました。
そして、彼は表情を一つも変えなく、無口で冷たい人でした。
そして、七歳の頃もう一度岬さんの家に行きました。
そしたら、その少年は別人のようになっていました。
ある一人の少年に向かって笑い、怒り、怒鳴ったりして色々な表情をみせるようになりました。
そう、岬さんは空様のおかげで柔らかい人になっていました。
そして、私たちは空様を守るようにと命じられ、岬さんの下につくようになりました。
岬さんは誰よりも強く、優しく、怖く。
そして、大人に強く信頼され私の憧れでした。

そして、一年後あの事件は起こった。
岬さんは怒り狂い昔のような冷たい目で狂ったような笑い声であなたは、敵味方関係無く、殺すようになった。
空様を取り返すためなら何でもやる。
そう言って何人も何人も…。
最強だったあなたを止める事は誰にもできなかった。
そして、止めに入った私たち二人もあなたに……。
でも、みんなと違って私たちは生きてました。
でも、その後の事はわからないです。
後日、話を聞いたら岬さんが無傷で空様だけを助けだしたと聞きま

した。

十三話（前書き）

岬視点に戻ります。

十三話

すべて思い出した…。
俺は、皆を……。

岬「そうか…。　ありがとうな話してくれて。」

雅「いえ、私は岬さんの為なら何でもやりたいんです。」

岬「ありがとう。　そして、ごめんな…。　許されない事だとは思う。　でも、もう一度だけ俺と手を組んで空を助けてくれないか？」

雅「…もちろんですよ。　けど、一つだけ約束してください。」

岬「なんだ？」

雅「あなたの中にいる鬼に乗っ取られないでください…。　それだけ、約束してください。」

鬼……。
俺の中にいる最もやっかいな奴。
そして、俺にも操れない人格…。
でも、今の俺なら？
昔より、成長したおれなら……。

岬「……。　大丈夫だ、俺の中にいる鬼は俺自身が制御してみせ

る！　そして、誰も俺より強いとは言わせない…。　約束する絶対に鬼は俺が制御してものにしてみせる！」

雅「……そこまで言われれば安心です。　私は岬さんの言葉を信じますから。」

岬「ありがとう。　雅。」

雅「さて、私も空様の様子をみてきますね？」

岬「あぁ、頼む。　何かあったらすぐに連絡をしてこい。　約束だぞ！」

雅「わかりました。　行ってきますね！！」

岬「あぁ、空を頼んだぞ！」

雅「はい！」

こうして、雅は保険室を離れた。
なにか、引っ掛かるところがあるんだが、なんだったっけな？
でも、回復したら鬼を操れるようにしなきゃな……。
じゃないと、皆の罪滅ぼしにならねぇからな…。
よっし、決まったらはやくねるか！

十四話（前書き）

保険室を出たあとからの空視点です！

十四話

にしても、岬は無茶をしたがるんだよな…。
ちょっとは休んだらいいのに……。
つか、自分のペース配分ぐらい考えろよな！
まったく！！
って、あの双子を呼ぶように言われたんだっけ？

おっ！

空「おーい、双子ども！」

雅「ん？　どうされましたか？」

空「なんか、岬が二人を呼んでこいって言ってたんだけど…。」

棗「あ～、わかった」

雅「教えてくれてありがとうございます！　それでは…。」

そういって、二人は保険室に向かって走って行った。

にしても、岬はいったいあの双子になんの用事なんだろ？
まぁ、いいけど。
それより、はやく生徒会室に戻って結さんと二人っきりになろ～！

って、目の前にいるやつなんか危なっかしいな…。
重たそうな荷物をいっぱい持ってフラフラしてる…。
今にも転けそうだなｗｗ

あっ！？

？「わぁ！」

あ～あ、本当に転けやがった…。
はぁ、助けに行くか。

空「大丈夫？　こっちにもプリント飛んできたんだけど…。」

？「Ｔｈａｎｋ　Ｙｏｕ！　すごく助かったよ！」

そう言って、男はほっぺたに手を回してほっぺたにキスをしてきた！

空「なっ！？　なんて事をするんだ！？」

？「何って、キスです！　感謝の気持ちです！！」

空「って、ここは日本だ！　外国じゃねぇんだからやめろよ！」

？「Ｏｈ！　ダメでしたか…。」

空「そらなぁ…。」

って、こいつ髪の色や目の色、行動や英語の発音…。
もしかして！

空「なぁ、いきなりで悪いんだけどお前外国人？」

？「ＹＥＳ！　でも、ちょっと外れ…ｗｗ　僕は樹　ロイドって言って日本人とイタリア人のハーフなんだｗｗ　そして、この春から日本に引っ越しに来たんだ！」

空「そうなんだ…。　よろしくな！　そして、さっきはごめん！」

ロ「Ｗｈｙ？　なんで謝るんですか？　気にしてないですよｗｗ
おかげで、日本ではキスをしたらいけない事がわかりましたしｗｗ」

空「まぁ、そうだけど…。」

ロ「とりあえず、僕は行くんで。」

空「あぁ、引き留めてごめんな？」

ロ「いえいえ、僕の荷物を拾うの手伝ってもらったんで！　こっちこそＴｈａｎｋ　Ｙｏｕでした！」

空「それじゃあな！」

ロ「はい、それじゃあチャオです！」

そういって、ロイドは走りだした。

いいやつだったな～。

十四話（後書き）

樹（いつき）　ロイド

イタリア人と日本人のハーフで、今年の春から日本に引っ越して来た。
そのおかげで英語が時々混じっている。
髪の毛と目は綺麗な緑色で空たちと同じクラスだそうだ
実は双子の弟がいる。

十五話（前書き）

今回は棗視点ですｏ（＾－＾）ｏ

十五話

にしても、空さんいないな…。
どこに行ったんだろ？
心配だな…。

って、あれは空さんだよな…？
隣にいるやつは誰だ？

あっ、離れた。

棗「野上く～ん誰と話してたんだい？」

空「ロイドって言うやつｗｗ　ドジで可愛かったぞｗｗ」

棗「そうなんだ」

ロイド…。
あいつ、空さんに近づいたのか…。
弟のほうが岬に手を出したし…。
あいつも動き出したんだな…。

早く始末しないと！

空「……つめ　なつめ　棗！」

棗「はいっ！　ってどうかしたか？」

空「いや、話しかけても答えないし、怖い顔で何か考えてるし…。
　どうかしたのか？」

棗「いや、なんでもないｗｗ　ただ単に考え事をしてただけだから…。」

空「そうか？　ならよかった…。　しんどいなら言えよ！　岬みたいに倒れられたら困るからな！」

棗「ははｗｗ　そんな、倒れる前に家に帰って寝るからｗｗ」

空「棗は偉いなそれを岬に見習ってほしいぜｗｗ」

棗「しょうがないじゃないか、岬は岬で大変なんだよ！　昔だってそうだったんだから…。」

空「…。　そうか…お前たちは昔の岬を知っているんだな…。
なぁ、どんかやつだったんだ？」

ここで、本当の事を言ったら岬の地位は下がるんだろうな…。
でも、空さんは昔を思い出すかも知れない…。
そうなったら空さんは……。

しかたない。

棗「いいやつでしたよ。　昔から正義感が強くて仲間が傷ついたらすぐに相手を倒しに行くやつだったなｗｗ　ほんとに昔から尊敬してるんだ。」

空「そうなんだ！　昔から今と変わらないやつだったんだな！！よかった！」

棗「なんでよかったんだ？」

空「ん？　今と変わらないやつでよかったって事ｗｗ」

棗「変わりましたよ…。　二回ほど。」

空「！！　そう…なのか？」

棗「はいｗｗ　小学生の時のテンションと中学・高校のテンションはまるで別人のように変わりましたｗｗ」

空「なんだｗｗ　そんなことかｗｗ」

嘘です…。
岬はあなたに出会ってから、感情を出すようになり、あなたがさらわれてから鬼が出てきた。
なんて、あなたに言ったら悲しむだろう…。
だから、言えないほんとの事なんて…。

空「んじゃ、俺はここで！」

棗「んじゃな。」

いったな…。

よし！

棗「後ろにいるやつ！　さっさと出てきやがれ！」

？「あらら～ｗｗ　バレちゃったかｗｗ　じゃあ、君は二人みたいにいる存在じゃないから死んでくれる？」

十六話（前書き）

色々グロいかもです…。
棄視点で（＊^―^＊）

十六話

俺の目の前に立っていたのは、岬を襲ったやつだ…。
俺一人で相手できるかな…。
いや、弱気になったらそれですべて終わる！
せめて、気持ちだけは勝ってやる！！

棗「なぜ、俺が死ななきゃならない？　死ぬのはお前だ！」

？「いやだな～ｗｗ　考えればわかるだろ？ｗｗ　お前が弱いからだよｗｗ」

棗「黙れ！」

俺は落ちていた鉄パイプを拾い走りだした。
一発でも、当たれば！

棗「死ねー！！」

ガキンッ

棗「なっ！？」

鉄パイプは一瞬で弾きとばされてしまった。

？「あ～弱いｗｗ　弱すぎるよｗｗｗｗ　なぁ、悪あがきなんかしないではやく死ねよｗｗ」

棗「黙れ！　お前なんか俺一人でじゅうぶんなんだよ！！」

？「じゅうぶんなんだｗｗ　んじゃ、これくらいよけれるよね？ｗｗ」

ヒュンッ

あいつが刀を降り下ろした瞬間…。

ガリッ

棗「あああぁぁぁぁぁ！！」

俺に今まで感じた事のない痛みが走った。
そう俺の左腕が無くなったのだ。

棗「俺の腕が！　腕がぁぁぁぁぁ！」

？「あははははｗｗ　飛んでっちゃったｗｗｗｗ　やっぱり、弱いじゃんｗｗ」

棗「はぁはぁはぁ。」

俺は意識が遠くなり息ができなくなった。

？「あはははははｗｗ　面白くないｗｗｗｗ　さっさと死んでよｗｗ」

そして、あいつは刀を降り下ろした…。
あっ、終わった。

ガキンッ！

棗「……。　えっ！？　俺…生きてる？」

？「大丈夫？　今助けるから！」

棗「兄さん！？　なんでここに？　それに岬まで…。」

目の前には岬が立っていて、剣を竹刀で受けとめていた。
そして、横には雅がいた。

雅「なんでって、お前の魂の反応が急に消えそうになって…。」

岬「雅に感謝しろよｗｗ　つか、まだ俺病人なんだけど…ｗｗ　おい、雅回復使えるよな？　早く棗を回復さしてやってくれ！」

雅「わかった。　痛いかもしれないけどごめん。」

棗「ありがとう二人とも。」

？「わぁ～！　鈴岡くん来てくれたんだ！！　それに、さっき戦った時よりパワーが上がってるし！　最高！！　さすが、鈴岡くん！！！」

岬「黙れグズ野郎が！　今の俺はさっきとは違う。　本気で殺さしてもらうぞ！」

？「本気できてくれるのは嬉しいけど、グズ野郎はひどいなｗｗ俺にはライトって言う名前があるのにｗｗ」

岬「お前にはグズ野郎で十分だ。　そして、一個質問。　兄貴はどうした？」

ラ「兄貴は、空のところに行ってるよｗｗ」

岬「なっ！？　おい！棗！雅！　治療が終わったら即座に空の救出をたのむ！」

棗・雅

「「了解！！」」

岬「それじゃいこうか、本気の勝負を！」

ラ「あはははｗｗ　楽しみだなｗｗｗｗ」

十六話（後書き）

樹（いつき）　ライト

ロイドの弟

感情が狂っている時が多い。

しかし、兄の前では素直になる。

十七話（前書き）

岬視点です。

十七話

岬「やっぱり、お前を今殺す！」

ラ「わおｗｗ　んじゃ、これぐらいはよけれるよね？」

そう言って、ライトは剣を振りかざした。

岬「甘いんだよ！」

岬は木刀で避けた。
しかし、木刀は真っ二つに割れてしまった。

棗「岬！！」

岬「いいから、さっさと空の元に行け！！」

ラ「あはははｗｗ　壊れちゃったねｗｗｗｗ」

岬「なめんなｗｗ」

ラ「え？」

そう言って、岬は目に見えないはやさでライトの腹の下に来ていた。

岬「砕けろ。」
ゴキッ
ラ「ぐはぁっ！」

ライトは血を吐いた。

ラ「なっ…なんで？　木刀は壊れたはずじゃ？」

岬「バカだなｗｗ　使ったのは、木刀の裏ｗｗ　それに、お前のあばら骨は折れてるだろうなｗｗ」

ラ「バカはどっちだ！ｗｗ」

ライトは笑いながら剣を持ち直し俺に剣をむけてきた。

岬「なっ！？」

ビッ
俺の顔に傷がついた。

ラ「なんだｗｗ　顔に傷がついただけかｗｗ　次はちゃんと殺してやるよｗｗｗｗｗ」

岬「傷？　なぁ、俺今血が出てる？」

ラ「出てるよｗｗ　真っ赤な血がね！！」

俺…。

血が出てる？

血が出で…。

血……。

岬「うわぁぁぁぁぁ！」

ラ「あはははｗｗ　壊れたｗｗ　鈴岡君が壊れたｗｗ

岬「あはｗｗ　ねぇ、君の血は何色？　君の目綺麗だねｗｗ　ねぇ？　僕に全部ちょうだいｗｗ　いいよね？　拒否権はないよｗｗ」

ラ「え？」

ガリッ

一瞬で腕が無くなった。

ラ「なぁ！？」

岬「あはははｗｗ　全部無くなれｗｗ　まずは一本目ｗｗｗｗ」

ラ「うわぁぁぁぁぁ！」

岬「あはっｗｗ」

ラ「君は鬼！」

岬「鬼？　なにいってんの？　僕は岬だよｗｗ」

ラ「黙れ鬼！」

岬「ねぇｗｗ君の目綺麗だねｗｗ　ちょうだいｗｗ」

ライトは押し倒された。
そして、目の前には岬がいた。

岬「あはははｗｗ　それじゃいただきますｗｗ」

ぐちゃぐちゃぐちょっ

岬は目玉をとって笑っていた。

岬「あはははははははｗｗ」

ラ「ああああああああぁぁぁぁぁぁ！！！！！」

岬「ねぇ？　もっと泣いて、叫んで！！　僕に聞かせて！」

ラ「やめっ、助けて…」

岬「あははｗｗ」

？「遊びもいい加減にしろ。　ライトは返してもらうぞ！」

岬「君は誰？」

十七話（後書き）

次回

鬼とかした岬の前に現れたのは？

十八話

あれ？
結さんがいない…。
岬の見舞いにでもいってんのかな？
まぁ、資料もくさるほどあるしやるか…。

？「ねぇ、空くん…。　こっちを向いて…。」

そう後ろから声がした…。
俺はおかしいと思った。
なぜなら、俺の後ろは窓だからだ…。

不思議に思いながらも、俺は後ろを向いた。

そこには、黒い羽がはえた男が立っていた。
その男に俺は見覚えがあった…。

空「……ロイ…ド？」

ロ「ＹＥＳ！　正解だよ！」

空「なんで、羽がはえて…？」

ロ「僕は悪魔だからｗｗ　いや、死神かなｗｗ」

空「なにいって…」

ロ「なにって、僕の正体かな？」

空「はぁ！？」

ロ「けど、今の空くんには俺興味が無いんだｗｗ」

空「一体なにいって…？」

ロ「ねぇ、今すぐ昔の記憶思いだしてよｗｗ」

空「確かに記憶はなくしているけど、急に思いだせって言われても……。」

ロ「……。　なるべく、手荒なマネはしたくなかったんだけどな…。」

そういって、ロイドが悲しそうな顔をしながら近づいてきた…。

そして、頭を捕まれ俺は暗闇に落とされた感覚になった。
あいつの言葉が頭によく入ってきた。

ロ「君は自分が弱い人間だと知っていた。　けど、それを隠そうと強く明るく振る舞っていた。　しかし、それがのちにあだとなった。　気持ちが安定せず、君は暴走した。　そして、あるものを作りあげた。　それが岬と融合して岬は鬼となった。　すべてはあんたのせいだ。　岬が大量殺人したのも、俺たちの仲間が仲間割れし殺しあいになったのも、空くんのお兄さんそう、陸を殺したのも全部お前のせいだ！！　返せ！　皆を陸を俺らのすべてを返せ！　この人殺しが！！」

そう言われた瞬間俺は走馬灯のように映像が頭を駆け抜けていった。

空「そうか、俺がみんなを…。」

すべて、思いだした。
自然と涙が出てきた。

ロ「殺してやる！」

ロイドの力がどんどん強くなっていった。

あっ、俺殺される…。

その時！

パリンッ
ビュンッ

グサッ

ロ「なっ！？」

ロイドから俺は解放されていた。
そして、周りをみたら。
窓ガラスが割れ、弓矢がロイドの腕をいぬいていた…。

ロ「なっ！？　なんで…！？」

？「待たせたな空☆　仲間をいじめるやつは許さない！　１００倍返しにしてやる！！」

空「お前は！」

十八話（後書き）

番外編
クリスマスイブ

春「なぁ、今日はクリスマスイブなのに男二人って悲しくないか？」

結「俺は一人で勉強していたいのに急に人の家に入ってきていきなりなんだ？」

春「だってさー！　高３なんだぜ俺ら！　なんで、彼女がいないんだぁぁぁぁ！！」

結「しらねぇよ！　邪魔すんな、抱きつくなうざい！」

春「ひでぇよｗｗ　そして、冷たいよ…」

結「つか、寂しいなら他の奴らを誘え！！」

春「……だってさー！　外寒いし、俺結に会いたかったんだもんｗｗ」

結「なっ！？／／／」

春「つか、クリスマスプレゼント的なやつ無いの？」

結「ない！！　つか、春も用意してないだろ！」

春「いや、結にだけプレゼントがあるんだがｗｗ」

結「はぁ！？」

春「ほら。」

春が渡した箱の中身はマフラーだった…。

春「お前マフラー一個も持ってなかっただろｗｗ」

結「あっああ、ありがとう…」

春「いつものお礼だしｗｗ」

結「しかし、お前は俺に何がほしいんだ？」

春「いや、結には、貰わなくていいよｗｗ
いつもお世話になってるから…」

結「いや、駄目だ！　それじゃあ、俺の気がすまない！」

春「いらないっていってもか？」

結「あぁ。」

春「…。　んじゃ、結俺にキスしてくれｗｗ」

結「なっ！？」

春「ほらほら～ｗｗ」

結「しかた無いな…。　ほら目を潰れ！」

春「ま…マジでｗｗ」

結「ほら早く！」

春「あっああ。」

そして、結の唇が近づいてきた…。
そして、

チュッ

春「／／／／　って、ほっぺたか～いｗｗ」

結「なっ？／／／／　たりまえだろ！　なんで口にしなくちゃなんないんだ！／／／／」

春「まぁ、結が勇気を出してやってくれたからＯＫにしようｗｗ
ありがとうな結！」

結「おっおうｗｗ　そっちこそ、クリスマスプレゼントありがとう…／／／／」

こうして、二人のクリスマスイブは終わった。

十九話

？「お待たせ！！　俺が来たから安心しろ！！」

空「春…。　なんで、ここにいるんだ…。」

春「お前を助けに来たからに決まってんだろ！！」

おかしい…。

こんな、タイミングで春が助けに来るなんて…。

春「空、ちょっとごめんな…。」

空「え？」

ドンッ

そういって、春が俺を蹴ってきた。

そして、俺は後ろにあった本棚にぶつかった。

意味がわからなかった。

なんで、蹴られたのか…。

空「何すんだ！！」

春「ちょっと、黙ってそっちに居とけ…。」

そしてそのあと、ドアが開いて誰かが入って来た。

？「ごめん…。　ちょっと寝といて…。」

空「えっ？」

俺は、次の瞬間気を失った…。

ロ「おいおい…ｗｗ　姫の危険な展開にナイト様の登場かよｗｗ」

春「おうｗｗ　俺たちの大事な仲間に手出してんじゃねぇぞ☆」

？「お前はたしか…。　同じクラスのロイドだよな……。」

ロ「一番のバカの小泉に成績優秀な秋月かよｗｗ　一般人が手出してんじゃねぇよｗｗ」

結「たしかに、俺たちは一般人でお前や空たりみたいに訳アリじゃないけど空は俺らの大切な仲間だから…」

春「仲間に手を出したら、１００倍返しにするのが俺らのルールだから…」

春・結「「お前を絶対許さない！！！」」

ロ「ははははっｗｗ　んな、事知らねぇ。　でも、あんたらを倒さないとそこに居る奴はもらえなさそうだな…ｗｗ」

結「空には一本も手を触れさせない。」

春「ロイドだっけｗｗ　なめてると痛い目みっぞｗｗ」

ロ「かかってこい！！　すぐに、潰してやる！！！！」

春「結！　本気でいくぞ！！！」

結「おう！！」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6252x/

異常な世界 ※男子高の物語でＢＬ要素あります。

2012年1月6日21時47分発行